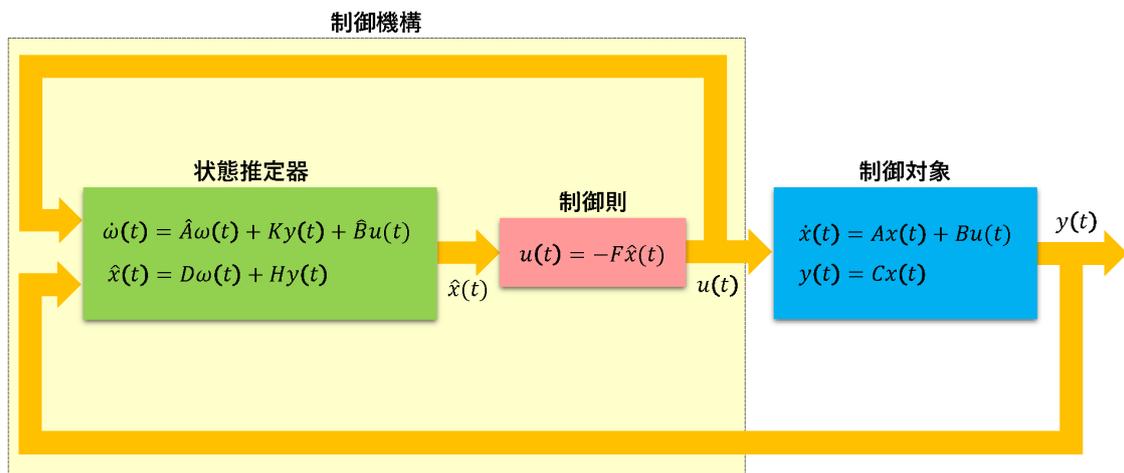


# Teaching Portfolio

## 2023



第 14 回佐賀大学標準版ティーチング・ポートフォリオ  
更新ワークショップ  
2023 年 3 月 8 日 (水)

佐賀大学 海洋エネルギー研究所  
松田 吉隆  
ymatsuda@cc.saga-u.ac.jp

## 内容

1. 教育の責任 .....	1
2. 教育の理念 .....	3
2.1. 周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとるために有効な「英語」 .....	4
2.2. 適切な行動に必要な「プレゼンテーション能力」 .....	4
2.3. 適切な行動の維持に有効な「自発的な行動」 .....	4
2.4. 行動の結果に大きく影響する「時間」 .....	4
3. 教育の方法 .....	4
3.1. 周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとるために有効な「英語」に関する取組み 4 .....	4
3.2. 適切な行動に必要な「プレゼンテーション能力」に関する取組み .....	5
3.3. 適切な行動の維持に有効な「自発的な行動」に関する取組み .....	5
3.4. 行動の結果に大きく影響する「時間」に関する取組み .....	6
4. 教育の成果・評価 .....	7
4.1. 「英語」に関する取組みの成果・評価 .....	7
4.2. 「プレゼンテーション能力」に関する取組みの成果・評価 .....	7
4.3. 「自発的な行動」に関する取組みの成果・評価 .....	8
4.4. 「時間」に関する取組みの成果・評価 .....	8
5. 教育の改善 .....	9
6. 今後の目標 .....	11
6.1. 短期目標 .....	11
6.2. 長期目標 .....	11
7. 添付資料 .....	12
8. 参考資料 .....	13

## 1. 教育の責任

佐賀大学では、「佐賀大学 学士力」【添付資料(1)参照】として、

「基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する」

ことを目指した教育が実施されているが、理工学部理工学科電気エネルギー工学コース・電子デバイス工学コース、大学院先進健康科学研究科先進健康科学専攻生体医工学コース、全学教育機構インターフェース科目においてもそれに対応した教育目的

「幅広い教養と電気エネルギー工学分野の専門的な素養を持ち、ソフトウェアにも強い電気技術者として電気エネルギーの発生・変換・利用などの社会の広い分野で活躍できる人材を養成する。」

「幅広い教養と電子デバイス工学分野の専門的な素養を持ち、ソフトウェアにも強いハードウェア技術者としてエレクトロニクスや情報通信などの社会の広い分野で活躍できる人材を養成する。」

「生体医工学コースでは、これまで積み重ねてきた生体計測と人体運動機能制御に関連する研究を融合発展させた研究を推進し、介護・リハビリテーション分野を中心とした臨床への展開を図る。その際、臨床のニーズを的確かつ迅速に取り込むために、本専攻の医科学コース、総合看護科学コースのみならず本学病院に設置されているロボットリハビリテーション外来と密接に連携する。また、専攻他コースと共同で、典型的な融合型産業である医工学に関連した製造・サービス業等で活躍する高度人材を養成する。さらには、総合看護科学コース及び医科学コースの学生に対して、機械工学や電子工学の学理及び先端技術の教授を通じて、主として前者においては患者介護、後者においてはリハビリテーションや医用電子機器・生命維持管理装置の使用について、確かな学問的バックグラウンドに基づく臨床プラクティスを可能とし、地域医療レベルの一段の底上げを目指すとともにコメディカル系人材を養成する。」

「インターフェース科目は、「現代社会が抱える諸問題に目を向けて課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、社会に対応するための知識・技術・技能や社会を生きるための力を身に付けることにより、学士課程教育で得た知識・技能を社会において十分に活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ことを目標としています。すなわち、インターフェース科目は、専門の知識・技術・技能を身につけた皆さんが、そうした知識・技術・技能を社会に活かすための能力を培うための科目です。」

【添付資料(2)参照】をそれぞれ掲げて教育を実施している。

私はこの教育目的に必要とされる「電気系基礎力学」「電気エネルギー工学実験」「電子デバイス工学実験」「卒業研究」「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「エレクトロニクスと生活Ⅳ」「応用電気エネルギー工学実験」「応用電子デバイ

ス工学実験」「生体医工学特別講義 I」「Biomedical Engineering Special Lecture I」などの専門科目を担当している。

2019 年度以降の担当科目の概要を以下に記す。各科目の内容についてはシラバス【添付資料(3)参照】に記載されている。

#### 2019 年度以降の担当科目

科目名	担当年度	受講者数	学年	種別	特徴
電気電子工学実験 C	2011～2020 年度	88～99 名	B3 年次前学期	必修	専門, 少人数, 実験
電気電子工学実験 D	2010～2020 年度	88～94 名	B3 年次後学期	必修	専門, 少人数, 実験
情報伝送工学	2013～2020 年度	36～63 名	B3 年次後学期	選択	専門, 講義
生体医工学特別講義 I	2019～2022 年度	19～20 名	M1 年次後学期	必修	専門, 講義
Biomedical Engineering Special Lecture I	2021～2022 年度	3～6 名	M1 年次後学期	必修	専門, 講義
電気系基礎力学	2020～2022 年度	32～43 名	B2 年次前学期	選択	専門, 講義
電気エネルギー工学実験	2021～2022 年度	42～51 名	B3 年次前学期	必修	専門, 少人数, 実験
電子デバイス工学実験	2021～2022 年度	47～49 名	B3 年次前学期	必修	専門, 少人数, 実験
応用電気エネルギー工学実験	2021～2022 年度	36 名	B3 年次後学期	選択	専門, 講義
応用電子デバイス工学実験	2021～2022 年度	44～47 名	B3 年次後学期	選択	専門, 講義
特別研究 I	2021～2022 年度	1～2 名*	M1 年次前学期	必修	専門, 少人数
特別研究 II	2021～2022 年度	1～2 名*	M1 年次後学期	必修	専門, 少人数
特別研究 III	2021～2022 年度	1～2 名*	M2 年次前学期	必修	専門, 少人数
特別研究 IV	2021～2022 年度	1～2 名*	M2 年次後学期	必修	専門, 少人数
卒業研究	2010～2022 年度	67～96 名*	4 年次通年	必修	専門, 少人数

\* 卒業研究の指導教員：2015 年度 2 名，2018 年度 1 名，2021 年度 3 名，2022 年度 1 名；特別研究の主旨導教員：2021 年度 1 名，2022 年度 3 名

上記のほかに、授業科目

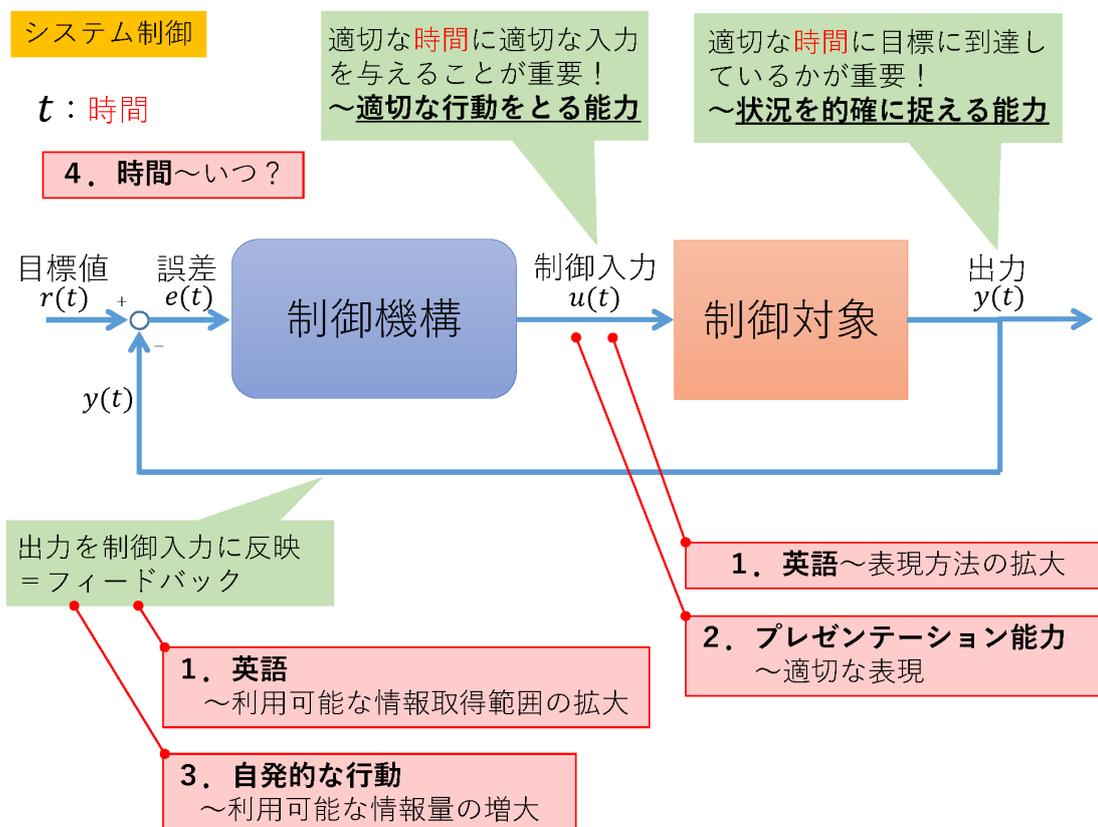
基礎電気回路	2019～2022 年度，システム制御と電気電子回路，90 分×1 週
創成科学融合特論	2021～2022 年度，レポート評価
大学入門科目	2022 年度，課題研究プレゼン確認・評価

の担当を実施した。

また、大学院授業補助・主任指導補助（2010 年度後期～2020 年度）も担当している【添付資料(4)および参考資料(a)参照】。

## 2. 教育の理念

私の専門分野はシステム制御であるがシステム制御とは、時間とともに動いているシステム（これを動的システムと呼ぶ）をわれわれの思いどおりの状態になるように人為的に操作（=制御，コントロール！）することである。システム制御の理論や技術を学ぶことによって制御の知識が身につくだけでなく、システム制御の理論や技術に用いられている考え方からも、大学・大学院を卒業・修了した後に必要となる「仕事をうまくやる」ための知見が多く得られる。実際、私が佐賀大学に着任する前に官公庁で従事していた機械設備の設計に関する業務では、各案件の現状（これは時間とともに変わっていく）を様々な方法で把握したうえでの書類作成が必要であったが、把握し損ねたり過去の経験からいい加減に判断して作成するとうまくいかなかったりいろいろな不具合が出たりした。また、納期（締切）を厳守する必要があることも経験的に学んだ。佐賀大学に着任してからは、実験科目のレポート対応やプレゼンテーション指導などでは、変えながら適切に指導する必要があることをこれまで多く経験してきた。このような私自身の経験から私は、「システム制御を通じて周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとる能力をもった人材を育成する」という教育の理念・目的を掲げて教育に従事している。これによって「佐賀大学 学士力」が目指す人材育成への貢献に努めている。



## 2.1. 周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとるために有効な「英語」

まず、「周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとる」ためには、言語によるコミュニケーションは有効な手段であるが、少子高齢化が進み続け海外とのやり取りが不可避となりつつある昨今、日本社会の一員として働くこととなる多くの学生にとっても国際的なコミュニケーションは必要であるとの考えから、私が担当する科目や実験テーマにはなるべく「英語」を取り入れるように心がけている。

## 2.2. 適切な行動に必要な「プレゼンテーション能力」

続いて、「適切な行動」を実現するためには、相手に自分が言いたいことや相手にしてほしいこと、理解してもらいたいことを相手にうまく伝える必要があるが、この「伝える」能力を涵養するために、特に研究の「プレゼンテーション指導」を徹底して行っている。これによって、伝える相手がどういった人でどういうことを知りたがっていてそれはどのようにすればうまく伝えられるのか、ということを考えながらプレゼンテーションの準備ができるようになることを目指している。

## 2.3. 適切な行動の維持に有効な「自発的な行動」

また、「周囲の状況を的確に捉える」ことは「適切な行動」の実現に大きく貢献する行為であるが、自分にとって必要な情報を得るためには他者に自発的に働きかけることが必要となることから、その能力を伸ばすための指導を心がけている。

## 2.4. 行動の結果に大きく影響する「時間」

ところで、社会で仕事をする上においては「時間」は極めて重要な概念である。実際、時間を守らなければ他者（他社などの組織かもしれない）に不利益や不便を与え、結果として「適切な行動」が取れなくなる事態につながる可能性が高い。そこでこの「時間」というものを強く意識させるために、それを規定するルールや締め切り厳守の指導をすべての場面で徹底するようにしている。

## 3. 教育の方法

### 3.1. 周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとるために有効な「英語」に関する取組み

- ・実験科目のあるテーマでは、実験内容を補足説明するのにパワーポイント【添付資料(5)参照】を使用しているが、スクリーンに表示する内容の一部を印刷したものを配布し、足りない部分や口頭でしか言わない部分を作って自分で書きとりながら聴かせることによって、説明を聞くことに集中させるよう努めている。また、印刷して学生に配布するものは英語で書くようにしていて、口頭での説明は日本語で行っているが、英語の説明もすることによって日本語で学ぶだけでなく基本的な英単語

などについての知識も得られるようにしている。

- ・講義科目での板書は基本的に英語で行い、重要な用語については日本語も記すようにして両方の言語で学べるようにしている。その際、書くスピードの影響を受けないように PPT 手書きのノートのコピーを貼り付けてプロジェクタでスクリーンに投影し、学生が書き写すのが終わるのを確認してから次のページに進むように気をつけている。また、ときどき書き間違えることがある（もちろん意図的ではない）が、間違っていないかよく確認しながら書き写させ、間違いに気づいたら指摘するようにも促してなるべく授業に参加させるようにも気をつけている。【添付資料(6)参照】

### 3.2. 適切な行動に必要な「プレゼンテーション能力」に関する取組み

- ・実験科目の実験テキストは、授業中の学生への説明や学生からの質問、レポート対応のやりとりや提出されたレポートを読んでいて修正が必要と感じた部分については次年度に修正し改善することによって学生のプレゼンテーション等にも役立つよう良質な素材を提供するよう努めている。【添付資料(9)参照】
- ・研究グループの学生全員に対して学会発表・修士論文発表会プレゼンテーション指導を実施している。1名1回につき60～90分程度で実施している。まず、定められた発表時間で発表ができるかどうかを実際に目の前で発表させてセリフが適切かどうかを聴きながら確認し、その後全般的な注意点がある場合はその注意をした後に、スライドを最初から最後まで1枚ずつ確認して修正や質問対応の準備などについて具体的にどうすればよいかを指導している。
- ・研究グループの学生のうち後藤教授・松田担当分の学生全員に対して学会発表論文作成の指導を実施している。論文はいきなり書き始めさせるのではなく、論文の内容の構成や使用する結果などの構想を練るための文書をゼミの資料としてまず作成させ、書く内容がある程度整理できたところで論文の執筆を開始するよう指導している。また、書き上げた論文については、てにおはまで含めて細部まで時間の許す限り丁寧に確認して具体的にどのように表現すればよいかを指示するよう努めている。
- ・中間発表会・最終発表会プレゼンテーションのための指導を研究室配属学生全員に対して実施している（1名1回につき60～90分程度）。やりかたは学会発表・修士論文発表会プレゼンテーション指導と同様であるが、その際、電気電子工学は裾野が極めて広い学術分野であることから相手（もちろん教員）が素人であることを意識させて論理的かつ簡単に説明するよう指導している。

### 3.3. 適切な行動の維持に有効な「自発的な行動」に関する取組み

- ・実験科目の実験レポート作成に当たって不明な点が出てきた場合は「何でも何度で

も」質問に来てよいということを繰り返し言うようにし、学生自らが積極的にレポート作成に取り組ませるように努めている。これによって、友人等のレポート丸写しをしなくてもレポートの作成ができるようにしている。【添付資料(10)参照】

- ・実験科目のレポート指導は1人ずつ対面で実施している。また、レポート指導が義務ではない実験テーマについてもレポート指導を希望する学生については指導している。
- ・実験科目のレポート指導に当たっては、学生の理解度に合わせて対応方法を変えるように努力している。その際、できているところはできていると伝え、できていないところについては何がどうできていないのか、あるいは何が足りないのか、といったことを具体的に伝えるよう努め、足りない内容については何が足りないかをレポートに直接書き込んで明示するようにしている。また、特によくできている場合にはなるべくほめるようにし、必要に応じて少し掘り下げた内容の解説をするようにして実験内容に興味を持ってもらえるよう努めている。【添付資料(10)参照】
- ・あらゆることについて学生たちが自主的に取り組む実験科目の場合には、可能な限り実験の進め方に関するアドバイスはしないようにしている。また、質問等をしてきても、学生自身で考えてほしい内容については明確には答えないようにしている。
- ・講義科目では、試験の直前にどういったことを勉強しておけばよいかを口頭で説明し、自分で頑張ればなんとかなると思わせ絶望感を与えないよう最大限努力している。

#### 3.4. 行動の結果に大きく影響する「時間」に関する取組み

- ・実験科目では、レポート作成についての締め切りやルールをきちんと守らせるために、口頭で伝えるだけでなくレポート作成要領をその都度配布している。【添付資料(12)参照】
- ・実験科目のレポート指導に当たっては、締め切りやルールを守れていない学生に対しては過度の叱責等はしないように気を付けつつそのことを明確に伝えるようにしその対応方法を学生の状況を確認しながら具体的に指示するようにしている。
- ・講義科目では出席管理をシステム任せにせず、毎回授業のはじめに一人ずつ名前を呼びながら出席を取っている。その際、顔と名前を覚えるよう努めている。
- ・研究室のルールや締め切り等は守るよう指導しているが、重要なことは口頭だけではなくガイダンスの際に資料を配布して読みながら説明したり、メールで送信したりして徹底するようにしている。

## 4. 教育の成果・評価

### 4.1. 「英語」に関する取組みの成果・評価

- ・電気エネルギー工学実験・電子デバイス工学実験のレポートの感想を英語で書くよう促しているが、その感想を読むと英語で書くのが難しいという意見が多くみられるものの英語の勉強が必要であるということに気がついたのでこれから勉強しようと思うという意見も多く得られており、英語を意識させることには成功している。【添付資料(10)参照】
- ・電気系基礎力学の授業で板書に英語を用いていることについては、内容を理解するのに役に立たないという意見もある一方で、知らない英単語の意味を調べることによって理解が深まる効果があるようである。【添付資料(13)参照】
- ・研究グループの大学院生の学会発表においては、これまでに 40 件（2023 年 3 月 8 日現在）の英語による論文原稿作成・学会発表があった。【参考資料(c)参照】

### 4.2. 「プレゼンテーション能力」に関する取組みの成果・評価

- ・大学院生の学会発表のプレゼンテーション指導に関しては、下記 5 件で表彰を受けている。【添付資料(14)参照】
  1. 東明純輝^M, 杉剛直, 松田吉隆, 後藤聡, 野平晴彦, 久保田有一：  
ICU 記録脳波における異常波の二段階自動検出システム, 2018 年 03 月,  
2018 年日本生体医工学会九州支部学術講演会, 九州工業大学 飯塚キャンパス 講義棟, 1A4, p. 20, 2018 年 3 月 3 日, 「研究奨励賞」受賞.
  2. 大庭尚之^M, 後藤和彦, 杉剛直, 松田吉隆, 後藤聡, 池田拓郎, 山崎貴男, 飛松省三, 後藤純信：  
独立成分分析を用いた視覚誘発電位加算平均法の改善, 2018 年 03 月,  
2018 年日本生体医工学会九州支部学術講演会, 九州工業大学 飯塚キャンパス 講義棟, 2A1, p. 25, 2018 年 3 月 3 日, 「研究奨励賞」受賞.
  3. 馬場亮輔^M, 杉剛直, 松田吉隆, 後藤聡, 山崎貴男, 大石文芽, 江頭成人：  
重度運動障害者の目きで操作する眼電図を用いた意思伝達装置, 2017 年 11 月, 第 36 回 SICE 九州支部学術講演会予稿集 (学生発表交流会), 鹿児島大学郡元キャンパス工学部, 鹿児島, 2017, p. 143, 105A13, 「優秀発表賞」受賞.
  4. 矢野撰^B, 松田吉隆, 杉剛直, 後藤聡：  
眼電図・筋電図を用いた移動型ロボットの操作, 2013 年 11 月,  
第 32 回 SICE 九州支部学術講演会予稿集第 11 回学生発表交流会アブストラクト, 長崎大学工学部, 長崎, 2013, p. 263, 5A8, 「優秀発表賞」受賞.
  5. 松本武郎^M, 塚本健太^M, 松田吉隆, 杉剛直, 後藤聡, 江頭成人：  
ビジュアルサーボを用いた遠隔操作システムにおける作業動作の改善, 2011

年 09 月，平成 23 年度電気関係学会九州支部連合大会(第 64 回連合大会)講演論文集，05-2P-06，p. 532，「電気学会論文発表賞 B 賞」受賞。

#### 4.3. 「自発的な行動」に関する取組みの成果・評価

- 電子デバイス工学実験で質問・レポート指導に来た回数について，2021 年以降は次のようになった【添付資料(15)参照】。

電子デバイス工学実験 指導回数

	テーマ番号 8		テーマ番号 10	
	回数 (総数)	回数 (学生 1 人当たり)	回数 (総数)	回数 (学生 1 人当たり)
2021 年度	98	2.1	27	0.57
2022 年度	21	0.43	132	2.69

2021 年度テーマ番号 8 および 2022 年度テーマ番号 10 に関してはレポート指導が必須であることもあって回数が比較的多い。一方で，2021 年度テーマ番号 10 および 2022 年度テーマ番号 8 に関してはレポート指導は必須ではないが，回数があまり多くなく自発的な行動を促す工夫が必要である。

- 電気エネルギー工学実験で質問・レポート指導に来た回数について，2021 年以降は次のようになった【添付資料(15)参照】。

電気エネルギー工学実験 指導回数

	テーマ番号 10	
	回数 (総数)	回数 (学生 1 人当たり)
2021 年度	17	0.38
2022 年度	15	0.29

レポート指導は必須ではないが，回数があまり多くなく自発的な行動を促す工夫が必要である。

#### 4.4. 「時間」に関する取組みの成果・評価

- 電子デバイス工学実験でレポート締め切りを守らなかった学生数については次の表のようになった【添付資料(15)参照】。電子デバイス工学実験については締め切りを守らない学生は少なく抑えられている結果となっている。

電子デバイス工学実験 締め切りを守らなかった学生数

	テーマ番号 8		テーマ番号 10	
	回数 (総数)	回数 (学生 1 人当たり)	回数 (総数)	回数 (学生 1 人当たり)
2021 年度	5	0.11	3	0.064
2022 年度	2	0.041	3	0.061

- ・電気エネルギー工学実験でレポート締め切りを守らなかった学生数については次の表のようになった【添付資料(15)参照】。電気エネルギー工学実験については締め切りを守らない学生は少なく抑えられている結果となっている。

電気エネルギー工学実験 締め切りを守らなかった学生数

	テーマ番号 10	
	回数（総数）	回数（学生 1 人当たり）
2021 年度	8	0.19
2022 年度	6	0.14

- ・電気系基礎力学で欠席回数については次の表のようになった【添付資料(16)参照】。電気系基礎力学については 6 回以上（6 回以上は成績評価の対象外）の欠席が少なく抑えられている。受講者数には関係しないこともわかる。

電気系基礎力学 欠席回数

	受講者数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回以上
2021 年度	32	18	4	2	0	2	4	2
2022 年度	43	16	9	7	3	4	2	1

## 5. 教育の改善

- ・学内の FD 講演会や学科内の授業参観等に参加した。
  1. 2023/2/13, 令和 4 年度佐賀大学ダイバーシティ推進室シンポジウム「研究環境のジェンダーパリティを目指して」に参加
  2. 2023/2/27, 令和 4 年度情報セキュリティ SD 講習会に参加
  3. 2022/12/21 令和 4 年度 e ラーニングによる「無意識バイアスマネジメント」を受講
  4. 2022/12/2, 理工学部 FD 講演会「みなし輸出管理及び研究インテグリティについて」（世利政則課長（社会連携課））に参加
  5. 2022/11/29, 理工学部電気電子工学部門授業参観，電気機械エネルギー変換工学（福本先生）の授業を参観
  6. 2022/11/4 令和 4 年度 e ラーニングによるコンプライアンス教育を受講
  7. 2022/10/12, 理工学部 FD 講演会「障害学生の学内支援体制について～キャンパスライフサポーター」（中島俊思先生）に参加
  8. 2022/10/21, 「大学設置基準等の改正に係る説明会」（(株)進研アド 改革支援室長 高坂栄一氏）に参加
  9. 2022/10/14, 令和 4 年度公正な研究活動の推進に関する講演会（黒木登志夫先生）に参加

10. 2022/8/10, 社会的インパクトに関する説明会に参加
11. 2022/7/6 令和4年度e-ラーニング情報セキュリティ講習を実施
12. 2022/6/8, 理工学部FD講演会の「佐賀大学版オンライン試験システムについて」(米満潔先生)と「令和5年度科研費申請に向けて」(佐藤和也先生)に参加
13. 2022/6/6, 理工学部電気電子工学部門授業参観, 微分方程式(山岡先生)の授業を参観
14. 2022/6/23, 令和4年度科学研究費獲得に向けた講演会(本庄および鍋島)に参加
15. 2022/6/1, 「裁量労働制の基礎」動画の視聴
16. 2022/3/8, 令和3年度国立大学法人佐賀大学公正な研究活動の推進に関する講演会(三島良直先生)に参加
17. 2022/3/16, 佐賀大学FD講習会「SDGs教育の動向と課題」に参加
18. 2022/3/11 令和3年度eラーニングによるコンプライアンス教育を受講
19. 2022/3/7, 研究費不正使用防止に関するコンプライアンス研修会(講師:宮本香様)に参加.
20. 2021/2/9, 理工学部FD講演会の「変わる研究開発環境・リサーチトランスフォーメーション-」(永野幸生先生)と「令和元年度決算に関する参議院決議に伴う対応(文部科学省通知)」(渡理事)に参加
21. 2022/2/28, 令和3年度ダイバーシティ推進室シンポジウム「変わる研究環境とダイバーシティ - 10年後の未来に向けて -」に参加
22. 2022/2/23 SD研修令和3年度佐賀大学苦情クレーム対応eラーニング研修を受講
23. 2021/11/6, 研究力向上セミナーPARTII「英語論文セミナー(応用編)」(小野義正氏(理化学研究所))に参加
24. 2021/10/12, 研究力向上セミナーPARTII「国際会議での英語プレゼンテーション:準備と実践」(小野義正氏(理化学研究所))に参加
25. 2021/10/27, 2021年度工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀 SDGs講演会に参加
26. 2021/10/22 SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」を受講
27. 2021/10/6, 令和3年度佐賀大学ダイバーシティ推進室FD・SD講演会(講師:藤原快瑤氏)に参加
28. 2021/8/8 研究倫理教育教材「eAPRINプログラム」を受講
29. 2021/7/14, 理工学系「学術コンサルティング制度について」寺本理事による説明会に参加
30. 2021/6/10, FD講習会「リアルタイム・オンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせた改良型ハイフレックス授業」(理工学部 准教授 掛下 哲郎 先生)に参加

31. 2021/6/29, 令和3年度科学研究費獲得に向けた講演会（本庄および鍋島）に参加
32. 2021/5/7 令和3年度 e-ラーニング情報セキュリティ講習を実施
33. 2021/1/20, 猪原先生, 和久屋先生, 西山先生, 電気電子工学部門 FD 講演会に参加
34. 2020/11/12, 公正な研究活動の推進に関する FD 講演会（天野浩先生）に参加
35. 2020/7/15, 田中徹先生, 大石先生, 堂園先生, 三沢先生, 電気電子工学部門 FD 講演会に参加
36. 2019/12/4, 中山先生, 理工学部 FD 講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」に参加
37. 2019/12/25, 「データサイエンス教育 FD 研修会」に参加
38. 2019/11/19, 理工学部電気電子工学部門授業参観, 集積回路デバイス工学（大石先生）の授業を参観
39. 2019/11/14, 公正な研究活動の推進に関する FD 講演会（梶田隆章先生）に参加
40. 2019/10/9, 理工学部 FD 講演会「安全保障輸出管理について」に参加
41. 2019年9月20日令和元年度科学研究費獲得に向けた講演会に参加
42. 2019/6/24, 理工学部電気電子工学部門授業参観, 理工概論（豊田先生）の授業を参観
43. 2019/6/17, 理工学部電気電子工学部門授業参観, 理工概論（豊田先生）の授業を参観

## 6. 今後の目標

### 6.1. 短期目標

現在担当している実験科目と講義科目について、学生から提出されたレポートや試験の答案の内容についての学生へのフィードバックを強化する方法を模索する。また、担当科目の変更があった場合は、その新たに担当する授業についても私の教育の理念・目的である「システム制御を通じて周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとる能力をもった人材を育成する」に沿って授業の準備をして実際に授業を実施して得られた応答に基づいて改善を繰り返していく。「教育の方法」の4つの取組みについて、別の有効な評価方法についても検討し、改善を試みる。

### 6.2. 長期目標

私の教育の理念・目的は、「システム制御を通じて周囲の状況を的確に捉え適切な行動をとる能力をもった人材を育成する」ことであるが、今後もこの理念・目的に沿った教育活動を継続・推進する。現状で関与可能な教育活動については全力で取り組みつつ、より広範囲の教育に携わることが可能になるように研究活動等にさらに注力する。

## 7. 添付資料

- (1) 佐賀大学 学士力
- (2) 佐賀大学理工学部理工学科電気エネルギー工学コース・電子デバイス工学コース  
教育目的, 佐賀大学大学院先進健康科学研究科先進健康科学専攻生体医工学コース  
教育目的, 佐賀大学全学教育機構教育インターフェース科目の目的
- (3) 担当科目シラバス (オンラインシラバス)
- (4) 大学院授業補助・主任指導補助職務内容調書写し
- (5) 実験科目補足説明資料
- (6) 講義科目板書資料
- (9) 実験科目実験テキスト
- (10) 実験科目レポート
- (12) 実験科目レポート作成要領
- (13) 講義科目試験答案
- (14) 教員活動データベース (一般講演 (学術講演を含む))
- (15) 実験科目成績根拠資料
- (16) 講義科目成績根拠資料

## 8. 参考資料

### (a) 大学院授業補助・主任指導補助詳細（2020年度時点）

#### 大学院授業補助

先端融合工学特別実習・演習 I～III，特別研究 I～IV，後藤教授・杉准教授担当分，1年間あたり 22.5 時間×6 科目（2010 年度は 22.5 時間×4 科目）

#### 主任指導補助

指導学生数

2020 年度修士 8 名博士 0 名，2019 年度修士 12 名博士 0 名，  
2018 年度修士 12 名博士 0 名，2017 年度修士 9 名博士 0 名，  
2016 年度修士 7 名博士 0 名，2015 年度修士 9 名博士 1 名，  
2014 年度修士 12 名博士 1 名，2013 年度修士 9 名博士 3 名，  
2012 年度修士 5 名博士 2 名，2011 年度修士 8 名博士 3 名，  
2010 年度修士 10 名博士 2 名

### (b) 教育に関する委員（2022 年度時点）

教育に関する委員として，

理工学部入学前教育専門委員会委員	2011～2017 年度
電気電子工学科 JABEE 委員会メンバー	2013～2015 年度
電気電子工学科情報系（のちに数学・情報系） 科目グループメンバー	2010 年度～2022 年度 2014 年度はグループリーダー
電気電子工学科学生実験委員会メンバー	2010 年度～2022 年度， 2014 年度委員長，2015 年度電気電子工 学実験 C グループリーダー，2018 年度 電気電子工学実験 D グループリーダー
電気電子工学科発表会担当	2014～2015 年度
電気電子工学科合宿研修基調講演講師	2013 年度
電気電子工学科図書委員	2010 年度
チューター	2010～2022 年度
電気電子行事企画担当	2019 年度

などを担当した（詳細は下記参照）。

#### 1. 理工学部入学前教育専門委員会委員

2011～2017 年度，理工学部推薦入試および一般入試合格者のうち電気電子工  
学科について e-learning のシステムを用いた入学前学習（高校数学）について

の業務（開始当初は問題作成も行った，12月～3月にかけては受講者からの質問対応）

2. 電気電子工学科 JABEE 委員会メンバー

2013～2015年度，月に一回会議，それに加えて中間審査に係る書類作成など

3. 電気電子工学科情報系（のちに数学・情報系）科目グループメンバー

2010年度～2022年度，月に一回会議，2014年度はグループリーダー

4. 電気電子工学科学生実験委員会メンバー

2010年度～2022年度，年に数回会議，2014年度委員長，2015年度電気電子工学実験 C グループリーダー，2018年度電気電子工学実験 D グループリーダー

5. 電気電子工学科発表会担当

2014～2015年度，卒業研究中間発表会・最終発表会，修士論文発表会の実施に関する業務

6. 2013年度電気電子工学科合宿研修基調講演講師

80分程度の基調講演「新入生へのメッセージ～システム制御の観点から～」

7. 電気電子工学科図書委員

2010年度，電気電子工学科の図書に関連する業務

8. チューター

学生の修学・進路選択，心身の健康などの問題について相談役となり，学生が充実したキャンパスライフを送る支援を目的としたチューター制度について，割り当てられた電気電子工学科学生

（2010年度入学生 5名，2011年度入学生 5名，2012年度入学生 5名，2013年度入学生 4名，2014年度入学生 4名，2015年度入学生 4名，2016年度入学生 3名，2017年度入学生 4名，2018年度入学生 4名，2019年度入学生 7名，2020年度入学生 6名，2021年度入学生 8名，2022年度入学生 4名）

に対して1名につき年4回程度（学期のはじめと定期試験前，内容にもよるが標準的には1回5～10分程度）面談実施，学期ごとにラーニングポートフォリオに記入された目標と自己評価へのコメント記入など

9. 電気電子行事企画担当

2019年度，電気電子工学科の行事（3年生工場見学等）に関連する業務

(c) 研究グループ学生の英語による論文原稿作成・学会発表実績（2023年3月8日現在）

1. Hayato Tokuda<sup>^</sup>M, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Naruto Egashira: Development of obstacle avoidance system for an object

- transportation robot by measuring obstacles, 2023 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Eighth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2022 (AROB 28th 2023), B-Con PLAZA, Beppu, JAPAN and ONLINE (Zoom), January 25-27, 2023, pp. 274-278
2. Shutaro Ono<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Naruto Egashira, Ayame Oishi and Takao Yamasaki: Simplified Initial Setting of a Nurse Call System Driven by Eye Movement Using Image Processing, 2022 年 10 月, Extended Abstract of the 54th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Nara Prefectural Convention Center, Nara, JAPAN (In hybrid format), October 14-15, 2022, pp. 11-12
  3. Yuya Wada<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Naruto Egashira: Development of autonomous control system for automatic search and transportation of an object by a mobile manipulator with obstacle avoidance motion, 2022 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Seventh International Symposium on Artificial Life and Robotics 2022 (AROB 27th 2022), ONLINE (Zoom), January 25-27, 2022, pp. 253-256
  4. Ayaka Narueda<sup>M</sup>, Kazuhiko Goto, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takuro Ikeda, Takao Yamasaki, Shozo Tobimatsu, Yoshinobu Goto: Component decomposition of visual evoked potentials by using independent component analysis, 2022 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Seventh International Symposium on Artificial Life and Robotics 2022 (AROB 27th 2022), ONLINE (Zoom), January 25-27, 2022, pp. 148-151
  5. Takahiro Fujimatsu<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Kazuhiko Goto, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Ayame Oishi, Takao Yamasaki: Improvement of an EEG analysis system for patients with dementia, 2022 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Seventh International Symposium on Artificial Life and Robotics 2022 (AROB 27th 2022), ONLINE (Zoom), January 25-27, 2022, pp. 157-160
  6. Naofumi Ikeda<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Saori Toyoda, Takamasa Kogure, Shuichiro Shirakawa: Characteristics of heart rate estimation method by sheet-shaped body vibrometer during sleep, 2022 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Seventh International Symposium on Artificial Life and Robotics 2022 (AROB 27th 2022), ONLINE (Zoom), January 25-27, 2022, pp. 130-133
  7. Kotaro Ushijima<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto,

- Takafumi Morisaki, Takeshi Yasunaga and Yasuyuki Ikegami: A Pseudomeasurement Approach to State Estimation for Liquid Level Control of Separator in an OTEC Plant Using Uehara Cycle, 2021 年 10 月, Extended Abstract of the 53rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Ritsumeikan University, Shiga, JAPAN, HYBRID symposium, October 30-31, 2021, pp. 68-69
8. Yoshitaka Sato<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Naruto Egashira: Development of autonomous control system for object transportation by a mobile manipulator based on image processing, 2020 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Fifth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2020 (AROB 25th 2020), B-Con Plaza, Beppu, Japan, January 22-24, 2020, GS14-3, pp. 376-380
  9. Ryo Inoue<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Haruhiko Nohira, Ryuzo Mase: Recording and Characterization of EEGs by Using Wearable EEG Device, 2019 年 10 月, Proceedings of 2019 19th International Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS 2019), Oct. 15-18, 2019 in ICC Jeju, Korea, pp. 194-197
  10. Ayon Kumar Das<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Shigeto Nishida, Kei Sato, Keiko Usui, Takefumi Hitomi, Masao Matsushashi, Akio Ikeda, Takashi Nagamine, Hiroshi Shibasaki: Automatic Judgment of Open/Closed Eye States for Accurate Interpretation of Awake Background EEG, 2019 年 10 月, Proceedings of 2019 19th International Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS 2019), Oct. 15-18, 2019 in ICC Jeju, Korea, pp. 198-203
  11. Yuya Aosaki<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Takeshi Yasunaga, Yasuyuki Ikegami: Model Construction of OTEC Plant Using Double-stage Rankine Cycle with Time Delay by Considering Separator and Working Fluid Tank, 2019 年 06 月, Proceedings of 2019 12th Asian Control Conference (ASCC2019), Kitakyushu, Fukuoka, Japan, June 9-12, 2019, pp. 358-363
  12. Yoshitaka Sato<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto and Naruto Egashira: Development of an autonomous control system for object gripping by mobile manipulator based on image processing, 2019 年 01 月, Proceedings of The Twenty-Fourth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2019 (AROB 24th 2019), B-Con Plaza, Beppu, Japan, January 23-25, 2019, pp. 446-449

13. Ryosuke Baba<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takao Yamasaki, Ayame Oishi, and Naruto Egashira: Extraction of Eye Movements for a Communication System by EOG Signal Using DC Amplifier, 2018 年 11 月, Extended Abstract of the 50th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Hotel Granvia Kyoto, Kyoto, JAPAN, November 1-2, 2018, pp. 67-68
14. Ayon Kumar Das<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Akio Ikeda, Takashi Nagamine and Hiroshi Shibasaki: Judgement of open/closed eye EEG for accurate interpretation of posterior dominant rhythm, 2018 年 09 月, The 12th ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS1-1, p. 23, Shimane, Japan, September 6-8, 2018
15. Shun Yamaguchi<sup>M</sup>, Kazuhiko Goto, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takuro Ikeda, Takao Yamasaki, Shozo Tobimatsu and Yoshinobu Goto: Development of new assistant system for VEP recordings, 2018 年 09 月, The 12th ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS4-4, p. 35, Shimane, Japan, September 6-8, 2018
16. Noboru Tagami<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto and Naruto Egashira: Construction of Remote Operation System of a Mobile Robot Arm Using Image Information and P Control, 2018 年 01 月, Proceedings of The Twenty-First International Symposium on Artificial Life and Robotics 2018 (AROB 23rd 2018), The Third International Symposium on BioComplexity 2018 (ISBC 3rd 2018), B-Con Plaza, Beppu, Japan, January 18-20, 2018, pp. 353-356
17. Masaya Minoda<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takao Yamasaki, Ayame Oishi and Naruto Egashira Development of Communication System Using Eye Movement Extraction via Image Processing with Blink Detection, 2017 年 11 月, Extended Abstract of the 49th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Hiroshima Institute of Technology, Hiroshima, JAPAN, November 3-4, 2017, pp. 35-36
18. Ryosuke Baba<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takao Yamasaki, Ayame Oishi and Naruto Egashira: Eye Movement Detection Using EOG for Communication of People with Disabilities, 2017 年 11 月, Extended Abstract of the 49th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Hiroshima Institute of Technology, Hiroshima, JAPAN, November 3-4, 2017, pp. 21-22

19. Yoshitaka Matsuda, Tsukasa Shimada<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Satoru Goto, Takafumi Morisaki and Yasuyuki Ikegami: Controller Design for Liquid Level Control of Separator in an OTEC Plant with Uehara Cycle Considering Disturbances, 2015 年 10 月, Proceedings of 2015 15th International Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS 2015), Oct. 13-16, 2015 in BEXCO, Busan, Korea, pp. 12-15
20. Yusuke Saito<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto: Relationship between Recuperative Effects by a Short Nap and Characteristics of its Polysomnographic Record, 2015 年 06 月, 2015 ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS4-3, pp. 33-34, Okayama, Japan, June 18-21, 2015
21. Takafumi Ikenoue<sup>B</sup>, Takenao Sugi, Yusuke Saito, Kazuhiko Goto, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Shuichiro Shirakawa, Takamasa Kogure: Automatic Detection of Heart Rate and Respiratory Rate in Polysomnographic Record for Feature Analysis of Sleep Stage, 2015 年 06 月, 2015 ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS4-4, pp. 34-35, Okayama, Japan, June 18-21, 2015
22. Chihiro Kitajima<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Haruhiko Nohira, Yuichi Kubota: Detection and Visualization of Abnormal EEG Patterns in the ICU Monitoring, 2015 年 06 月, 2015 ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS9-6, pp. 54, Okayama, Japan, June 18-21, 2015
23. Osamu Yano<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Naruto Egashira: Single Channel Measurement of EOG and EMG Applicable for Hands Free Remote Operation System of a Mobile Robot, 2015 年 06 月, 2015 ICME International Conference on Complex Medical Engineering, OS19-5, pp. 94-95, Okayama, Japan, June 18-21, 2015
24. Takumi Komorita<sup>B</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto: Experimental Study on PD-type Anti-windup Compensator Design for a Water Level Control System with Magnitude and Rate Saturation, 2014 年 12 月, 第 33 回計測自動制御学会九州支部学術講演会予稿集, 九州工業大学戸畑キャンパス, 北九州, 福岡, 2014, pp. 121-124
25. Daiki Urayoshi<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Takafumi Morisaki and Yasuyuki Ikegami: Model Construction of Heat Source in an OTEC Pilot Plant for Stabilization Control Based on Experimental Data, 2014 年 10 月, Proceedings of 2014 14th International

- Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS 2014), Oct. 22-25, 2014 in KINTEX, Gyeonggi-do, Korea, pp. 116-120
26. Teruaki Suetsugu<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, and Naruto Egashira: A Visual Supporting System for Teleoperation of Robot Arm Using Visual Servo Control, 2014年09月, Proceedings of SICE Annual Conference 2014, September 9-12, 2014, Hokkaido University, Sapporo, Japan, pp. 1847-1852
  27. Osamu Yano<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, and Naruto Egashira: Operation Systems for a Mobile Robot Using EOG and EMG, 2014年09月, Proceedings of SICE Annual Conference 2014, September 9-12, 2014, Hokkaido University, Sapporo, Japan, pp. 1853-1858
  28. Tatsuki Matsuura<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi and Satoru Goto: Analysis of Deterioration of Rotating Equipment with Misalignment via Experimental Data, 2013年11月, Abstracts of the 45th ISICIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Okinawa, Japan, November 1-2, 2013, pp. 79-80., 79-80
  29. Kazuhiko Goto<sup>D</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Hiroki Fukuda, Yoshinobu Goto, Takao Yamasaki and Shozo Tobimatsu: Characteristic Analysis of Visual Evoked Potentials and Posterior Dominant Rhythm by Use of EEG Model, 2013年10月, Proceedings of 2013 13th International Conference on Control, Automation and Systems, Kimdaejung Convention Center, Gwangju, Korea, October 20-23, 2013, MB02-1, pp. 233-236., 233-236
  30. Kenji Takushima<sup>M</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Satoru Goto, Naruto Egashira: Teleoperation of Robot Arm with Stereo Camera for Position Measurement, 2013年09月, Proceedings of SICE Annual Conference 2013 (in DVD-ROM), Nagoya University, Nagoya, Japan, September 14-17, pp. 319-324, 2013
  31. Kazuhiko Goto<sup>D</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Hiroki Fukuda, Yoshinobu Goto, Takao Yamasaki, Shozo Tobimatsu: Analysis of Visual Evoked Potentials for Different Stimuli: Effects of Color Combination and Patterns, 2013年07月, Preprint of 35th Annual International IEEE EMBS Conference, SaB11, 7, July 2013
  32. Kento Tobinaga<sup>M</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Fusae Kawana: Feature Analysis of PSG in Patients with Sleep Apnea Syndrome by Use of Complex Demodulation Method, 2013年07月, Preprint of 35th

- Annual International IEEE EMBS Conference, SaB11, 16, July 2013
33. Yutaro Sueyoshi<sup>M</sup>, Kazuhiko Goto<sup>D</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Hiroki Fukuda, Yoshinobu Goto, Takao Yamasaki, Shozo Tobimatsu: Physiological State Evaluation of VEP Recording by Combination of Image and EEG, 2013 年 07 月, Preprint of 35th Annual International IEEE EMBS Conference, SaB11, 17, July 2013
  34. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Takenao Sugi and Naruto Egashira: Simulation and Analysis of Dynamics of the Force-free Control for Industrial Robot Arms, 2012 年 10 月, 2012 12th International Conference on Control, Automation and Systems, ICC, Jeju Island, Korea, October 17-21, 2012, 733-738
  35. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Naruto Egashira, Takenao Sugi and Satoru Goto: Development and Evaluation of Simulation Model for Force-free Control Strategies, 2012 年 09 月, Proceeding of 2012 6th International Conference on Information and Automation for Sustainability, Beijing, China, September 27-29, 2012., 147-152
  36. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Naruto Egashira, Takenao Sugi and Satoru Goto: Comparison of Interaction Forces of Robot Arm on Force-free Control and Impedance Control by Model Based Simulations, 2012 年 08 月, Proceedings of SICE Annual Conference 2012, Akita University, Akita, Japan, August 20-23, WeB10-06, pp. 1695-1700, 2012, 1695-1700
  37. Kazuhiko Goto<sup>D</sup>, Takenao Sugi, Yoshitaka Matsuda, Satoru Goto, Hiroki Fukuda, Yoshinobu Goto, Takao Yamasaki, Shozo Tobimatsu: Real-time Evaluation System for Accurate VEP Recording and Analysis, 2012 年 07 月, Proceedings of The 2012 ICME International Conference on Complex Medical Engineering (CME 2012), Kobe, Japan, July 1-4, 2012, TP2-1(4), pp. 429-434
  38. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Naruto Egashira, Takeo Matsumoto, Kenta Tsukamoto, Takenao Sugi and Satoru Goto: Evaluation of the Teleoperation System based on Force-free Control and Visual Servo Control by Using Different Human Operator Perception: Evidence Verified by Experiments and Statistical Analysis, 2012 年 01 月, Proceedings of The Seventeenth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2012 (AROB 17th '12), B-Con Plaza, Beppu, Oita, Japan, January 19-21, 2012, pp. 1089-1094
  39. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takenao Sugi, Takeo Matsumoto,

Kenta Tsukamoto, Naruto Egashira and Satoru Goto: Investigation of Lighting Conditions for Teleoperation of Robot Arms by Image Processing and Force-free Control, 2011 年 11 月, Abstracts of The 43rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, Shiga, Japan, pp. 74-75, November 28-29, 2011

40. Achala Pallegedara<sup>D</sup>, Yoshitaka Matsuda, Takeo Matsumoto, Kenta Tsukamoto, Naruto Egashira and Satoru Goto: Remote Control of Robot Arms via Network by Force-Free Control Followed Template Matching, 2011 年 09 月, Proceedings of SICE Annual Conference 2011, WeC08-06, pp. 940-945

(d) その他の過去の専門科目担当 (2023 年 3 月 8 日現在)

これまでに電気電子工学科の専門科目

基礎電気電子工学及び演習	2010 年度～2013 年度
大学入門科目 II	2013 年度
大学入門科目	2010 年度, 図書館の利用方法, 90 分×2 週
大学入門科目 I	2014 年度, 情報・電気回路の勉強方法について講義, 90 分×1 週
大学入門科目 I	2015 年度, 電気電子工学における教育プログラムについて講義, 90 分×1 週

の授業を実施した.

(e) 過去の教育の改善の取り組み (2023 年 3 月 8 日現在)

- ・学内の FD 講演会や学科内の授業参観等に参加した.
- 1. 2019/3/14, 「データサイエンス教育 FD 研修会」に参加
- 2. 2019/3/15, 「データサイエンス教育 FD 研修会」に参加
- 3. 2019/3/5, 「平成 30 年度情報セキュリティ SD 講習会」に参加
- 4. 2019/2/8, 高先生, 松田, 只野先生, 理工学部 FD 講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」に参加
- 5. 2018/12/13, 理工学部電気電子工学科授業参観, 電子計測 (高橋英嗣先生) の授業を参観
- 6. 2018/12/11, 理工学部電気電子工学科授業参観, ベクトル解析学 (田中高行先生) の授業を参観
- 7. 2018/9/19-21, 第 21 回佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
- 8. 2018/7/10, 理工学部電気電子工学科授業参観, 電気回路 D 及び演習 (大津先生) の授業を参観

9. 2018年6月26日第1回科研費獲得に向けたFD講演会「科研費申請と真摯に向き合う」寺本憲功氏（研究・社会貢献担当理事）に参加
10. 2018年3月7日工学系研究科FD講演「安全保障輸出管理について」リージョナル・イノベーションセンター 鈴木客員教授 に参加
11. 工学系研究科「データサイエンス講座」（2018年2月22～23日）に参加
12. FD講演「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」（2018年2月5日，竹下教授，藤澤特任講師）に参加
13. 工学系研究科「情報科学技術教育講演会」（2017年12月26日）に参加
14. 工学系研究科FD講演会「ハラスメントのないキャンパスにするために」（2017年11月8日，佐賀市社会同和教育指導員松岡浩代氏）に参加
15. 電気電子工学科「環境電気工学」（2017年11月14日，猪原先生）の授業を参観
16. 工学系研究科FD講演会「ワンポイント解説一反転授業，アクティブ・ラーニング，ポートフォリオ」（2017年10月11日，皆本教授）に参加
17. 工学系研究科FD講演会「18歳人口の減少が加速する時代を見据えた学生獲得について」（2017年6月7日，兒玉アドミッションセンター長）に参加
18. 全学教育機構佐賀大学簡易版ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（2017年3月8日）に参加
19. 電気電子工学科「論理回路」（2016年11月29日，伊藤先生）の授業を参観
20. 工学系研究科FD講演会「佐賀大学教育功労者表彰を受けて」（2016年9月7日，北村二雄教授）に参加
21. 電気電子工学科「電磁気学C及び演習」（2016年7月12日，豊田先生）の授業を参観
22. 工学系研究科FD講演会「電気電子工学科JABEE中間審査報告」（2016年5月11日，豊田一彦教授）に参加
23. 工学系研究科FD講演会「佐賀大学教育功労者表彰を受けて」（2015年10月7日，前田定廣教授）に参加
24. 電気電子工学科「半導体デバイス工学」（2015年6月26日，田中徹先生）の授業を参観
25. 電気電子工学科「信号解析論」（2014年12月15日，原先生）の授業を参観
26. 全学教育機構ティーチングポートフォリオミニワークショップ（2012年11月19日）に参加
27. 「平成24年度大学電気系教員協議会および大学電気工学教育研究集会」（2012年8月6日，日本大学理工学部駿河台校舎1号館）に参加
28. 電気電子工学科「情報基礎演習I」（2012年7月2日，古川先生）の授業を参観
29. 電気電子工学科「微分積分学B及び演習」（2012年1月16日，古川先生）の授業を参観

- 専門領域に関連する教科書を執筆した。
  1. 大住晃，亀山建太郎，松田吉隆：カルマンフィルタとシステムの同定—動的逆問題へのアプローチ，2016年10月，森北出版株式会社（2018年度計測自動制御学会 著述賞 受賞）